



懐かしい雰囲気が漂う呑ん兵衛横丁の「お恵」で、菊池悠子さん(左)と会話を弾ませる学生たち

釜石の街の魅力 若者の目で

慶応大、県立大が調査

きょう成果をポスター表現

釜石市の魅力発信に若者の視点を生かしてもらうようと、慶応大と県立大の学生43人は12日、同市で地域資源を探る調査をした。小グループに分かれ、16カ所を訪ねて直接取材した。感じた魅力を伝えるポスターをグループごとに製作し、13日に市民にお披露目する。慶応大は加藤文俊准

教授(環境情報学部)の研究室から18人、県立大は学生ボランティアが参加。商店や酒造会社、民宿などに足を運んだ。落合裕美さん(慶応大修士1年)、吉田みなこさん(県立大3年)、松本唯美さん(同2年)は、同市大町の「呑ん兵衛横丁」に出向き、「居酒屋

「お恵」を訪問。50年近く店を切り盛りしている菊池悠子さん(70)に話を聞き、気さくな人柄に触れた。

取材後は加藤准教授の指導で、夜遅くまでポスター製作に励んだ。13日昼までに完成させ、同日正午から同市大町の釜石ベイシティホテルで一般公開の展示会を開く。

作品を仕上げたい」と構想を練った。

加藤准教授の研究室は全国各地で、地域資源を「若者・よそ者」の視点でとらえ、魅力を伝えるポスターなどを製作し、地域に還元する取り組みを展開。今回は学会で知り合ったという県立大関係者との縁で、本県の釜石市で実現した。

加藤准教授は「(調査によって)街を変えろなどと軽はずみなことを言っってはならないが、何らかの刺激にはなるはずだ。学生には本心に思ったことをかたちにしてほしい」と期待した。